

建設防災 ボランティアニュース 第 49 号

大島土石流災害被災地を視察して

未曾有の豪雨により、死者・行方不明者 40 人、建物被害 368 棟にも上った伊豆大島土石流災害は、当協会にとって、三宅島の噴火以来の身近な大規模災害でした。奇しくもボランティアニュースの第 1 号は、トップニュースが三宅島の被害状況の調査と見舞い品の贈呈になっています。

自分達にも何かできるのではと思われた方も多かったのではないのでしょうか。このような中、協会では 10 月 30 日に緊急理事会を開催し、早急の支援は困難にしても、今後の対応等を検討するために会員を現地に派遣し、被害状況の調査を行うこととした。以下に調査の概要を報告します。

◇調査日 11 月 8 日(金)



大島支庁玄関前

林(幹)・池田・久保田・野村(隆) 会員

◇日程 大島支庁挨拶(11:00)⇒長沢堆積工(11:30)⇒大金沢支川堆積工(13:00)⇒大金沢堆積工及及び下流域(13:30)⇒八重沢(14:00)⇒弘法浜(14:30)元町港(15:00)

◇ 大島支庁

現地対策本部がおかれ、都、消防、警察など多くの組織の災対服職員が行き交い、対応に追われていた。元支庁土木課長であった池田さんの案内で、土木課長に挨拶に伺ったがあいにく不在で名刺のみを置かせていただいた。

◇長沢堆積工

支庁から徒歩で山道を登っていく。土砂や流木を満載したダンプトラックとすれ違い、沢や山肌に災害の痕跡が目立つようになると、その先に長沢堆積工らしきコンクリート壁が、その上に三原山の崩落した斜面が現れた。倒木と土砂の山、放置されたコルゲート管などが痛々しいが、まだ序の口であった。



長沢堆積工

◇大金沢支川堆積工～大金沢堆積工

次第に山頂付近の崩壊箇所がはっきり見えるようになり、崩壊範囲の広大さを確認しつつたどり着いた大金沢支川及び大金沢の堆積工では、今回の災害の規模、特長、怖さを実感させられた。

鋼製スリットには膨大な樹木が捕捉されて山となり、堆積工には黒く細かい土砂が満杯であった。



大金沢堆積工

そして自衛隊、消防等が一団となって行方不明者を捜索する様子も遠望された。流木は一部撤去されているものの、膨大な土砂の処理はこれからであり、処分先の確保など困難が予想された。

また、これらの堆積工の下流側では大きな災害にならなかったことで、災害防止のための土木構造物が、人の命と暮らしを守ることに役立ったということを確認できた。

◇大金沢下流域(神達地区)、八重沢



八重沢から山腹崩落箇所への遠望

一旦都道に出て神達地区に向かった。しかし上流部分では未だ捜索活動が続き、被害家屋が点々と残り、自衛隊の車両が頻繁に往来しているため遠望するに止め、八重沢方面に歩を進めた。途中捜索は終わった地区では、人影はほとんど見られず、大規模な被害の跡がそのまま残されて

いた。

なぎ倒された大木、屋根だけになった家、建物の半分を流された家屋、つぶれた乗用車などが瓦礫の中に取り残されており、土石流の怖さを改めて感じさせられた。

◇元町漁港

土石流が海まで流れた大金沢に沿い、泥出し、水洗い、清掃などで忙しい被災家屋の脇を心苦しい思いで通過し、元町漁港に向かった。

土石流の痕跡は海岸近くの建物まで及び、漁港では流れ込んだ土砂で浅くなった海に重機を降ろす作業が行われていた。

この時は漁港の復旧作業かと思ったが、実は海まで流された？行方不明者の捜索の準備をしていたようであった。

◇ ◇調査を終えて

今回は島内の滞在時間が約5時間と非常に短い調査であったが、貴重な体験をさせていただいた。この災害に対し協会は何が出来るのか、そして今後このような災害が発生した場合に備え、協会はどのような準備をするかなどについて議論する必要があると強く感じました。

最後に、あらためて亡くなられた方々の御冥福を祈るとともに、被災された方々の一刻も早い復旧・復興をお祈りして報告を終わらせていただきます。

瓦礫の脇に「もりおの家」という看板が転がっていたので撮影しました。ネットで調べると素泊まり中心の小さな宿だったようです。

このブログにはすべてを流された方の率直な思いが記されています。興味のある方は覗いてみてください。

理事 林 幹生

平成 25 年度総合防災訓練

本年度の総合防災訓練は東京都とあきる野市の合同で11月23日、午前9時から行われました。

当協会は建設局からの協力依頼を受け、都立秋留台公園会場で行われた訓練に本部から2名

平成 25 年 12 月 10 日

(久保田・林(幹)理事)、西部公園班 3 名、西建班 4 名の計 9 名の会員が参加しました。なお、今年度の訓練は、9 都県市合同防災訓練の東京都会場の一つとして実施されたものです。

今回の訓練は、東日本大震災によって明らかになった防災上の課題や新たな被害想定を踏まえた実践的な内容とするため ①自助・共助確立支援と住民の防災意識の向上 ②各防災機関及び行政機関の実践的な訓練による災害対応力の向上 ③関係機関の相互連携による災害対応力の向上などを基本方針として実施されました。

担当理事 久保田 元久

西建班の報告

今年度の合同総合防災訓練の道路障害物除去訓練に西建班からは、小山(弘)・谷村会員が参加しました。

当日の訓練は、実践的な対応力の向上と関係機関の相互連携の強化をはかるため、詳細なタイムスケジュールは決めず、土砂災害に伴う道路被害を想定して、地元の道路啓開協力会社の現場作業指示を西建職員と協力して行いました。

道路啓開作業の途中、消防庁バイク隊やけが人救護用特殊車両等が通行するため、作業を一時止めて車両を通行させたのち、安全確認後に作業を再開させるなど、実践さながらの作業指示を行いました。



道路障害物除去訓練状況

No.49(25—2)

また、その先で土砂崩落により埋まった車両から負傷者救助完了の報告を現場警察官から受け、引き続き道路啓開作業を実施しました。

緊急車両の通行幅員を確保し、安全を確認のうえ、西建災害対策本部に道路啓開作業の完了を無線連絡し、現場作業指示班の作業を終了しました。

その後、東京消防庁、警視庁、自衛隊車両等が、啓開道路を通して被災現場の救出救助会場に続々と駆けつけました。

更に、広域救急隊や海外からの救援隊なども駆けつけて救出救助訓練にあたるなど、関係各機関が連携した実践的な訓練となりました。

都市型水害水防工法訓練、自然災害体験、各種展示等の会場には、西建班から佐藤(肇)・橋本会員が参加しました。



土のう積みを指導する会員

土のう積み体験訓練、水のう積み体験訓練及び水圧扉体験訓練には、予想を大きく上回る人々が参加され、用意した記念品も足りなくなるなど嬉しい悲鳴と、同時に参加者の誘導等も大忙しの状況でした。

水圧扉体験では、水圧により建物の扉が開閉困難となる状況を体感し、参加者は改めて水災害等の怖さを実感されていました。

他の地域での防災訓練の視察を終えた猪瀬知事がヘリコプターで到着し、訓練会場を視察され 12 時に総合防災訓練は無事終了しました。

全体会場では都知事などから訓練講評を受け

平成 25 年 12 月 10 日

た後、西建作戦本部テント前にて、横溝局長、邊見道路監、杉橋西建本部長から講評を受け、訓練を無事終了しました。 西建班 谷村 秀樹

西部公園班の報告

11 月 23 日(土)に都立秋留台公園及びその周辺で実施した総合防災訓練に西部公園班の篠原・二宮・小口会員が参加しました。

担当は、西部公園緑地事務所の展示・訓練サポートです。



参加職員と会員

日頃から訓練で一緒にいる西部公園緑地事務所の職員の皆さんと仮設トイレの設置及び参加者への使い方の解説をしました。

あきる野市で、これだけ大規模な防災訓練は初めてとのことと多くの方が、災害時の公園の果たす役割や非常用トイレや防災かまどの施設に関心を寄せ、秋留台公園にも早く防災用トイレ設備を設置してほしいとの感想をいただきました。

メイン会場では、土砂災害の発生など、多摩地域の被害特性に対応した訓練や、孤立集落を想定したヘリコプターによる支援訓練などが展開され、つい先日の伊豆大島での土砂災害による救出救助活動を髣髴させる真剣な取り組みに多くの市民が注目していました。

晴天にも恵まれ、防災への市民の関心や最新の訓練の状況や防災機器が見られるなど大変勉強になりました。 西部公園班 小口 健蔵

No.49(25—2)

平成25年度勝どきミニツアー研修会の開催 ～土木学会から寄贈された勝関橋映画の放映～

11月6日(水)15時30分から、50名の参加により第8回目の研修会を、今回から会場を道路整備保全公社会議室に変更し開催いたしました。

会長、ご来賓挨拶の後、研修に入り公社の佐口係長、続いて、保全課紅林橋梁構造専門課長から、勝どき橋に関する種々の説明がなされました。(詳細は研修会報告をご覧ください)

佐口係長、紅林課長にはお忙しい中、講師を引き受けて頂き感謝申し上げます。また、紹介された内容は、今後のミニツアーに大いに参考とさせていただきます。

研修会は、17時 30 分に終了、会場を第二庁舎 4 階食堂に移し、懇親会が 18 時から開催されました。参加された皆さん、大変ご苦労様でした。

今後とも、都、公社の関係者および会員の方々のミニツアーへのご支援、ご協力をお願い申し上げます。 勝どき担当理事 堀中 逸

研修会の報告

研修会の開催にあたり、杉浦建設防災ボランティア協会会長、川合建設局道路保全担当部長、東道路整備保全公社常務理事の3名からご挨拶がありました。

杉浦会長からは、平成 17 年 5 月から約 8 年半の間に見学者約 6,000 人というお話があり、多くの方々に参加をいただいたのは、勝関橋開閉の仕組みを目の当たりに見られ、見学者の質問意見に解りやすく真摯に対応したこと、展示資料の分析等が好評を得たものであると述べられました。

川合道路保全担当部長からは、ミニツアー事業が年々盛況なのは、みなさまの尽力によると感謝の意を述べられ、これからも公社、協会、局の連携が欠かせないとお話しされました。

また、新たに架かる環状2号線の橋梁の完成が見えてきたので、来年度から勝関橋の長寿命化工事を実施していくと話され、そのため今年11月

平成 25 年 12 月 10 日

見えてきたので、来年度から勝関橋の長寿命化工事を実施していくと話され、そのため今年11月中に委員会を開催して現状を観察、点検し勝関橋を開跳という話が出た時のために、しっかり議論していきたいと話されました。

さらに、土木学会から勝関橋建設記録映像の寄贈をいただき、局で編集して映画を作成している。11月24日から4日間新宿西口広場で無料公開を予定しているので、映画を見て、ミニツアーへの参加者が益々増えるのではと話されました。

東常務理事からは、ミニツアーは公益事業の一つでテレビ、雑誌に多く取り上げられ取材に訪れた有名人の名前を挙げて広報が重要であると話されました。

また、局のパートナーとして局事業への貢献、市区町村への技術協力、19 公益事業の実施に今後も積極的に取り組んでいくと述べられました。

さらに、東北地方大地震の復興支援状況の視察の折、(で)都 OB として派遣されている勝谷さんが宮城県気仙沼市役所で活躍されている様子や都職員が先頭に立ち働く姿を見て、誇らしく思えたとの報告がされました。また災害復興の経験豊富な防災ボランティア協会の存在を頼もしく思いますとの言葉がありました。

研修に移り、道路整備保全公社公益事業課の佐口係長から(1)24 年度の案内実績報告及びマスコミ取材の紹介を資料により説明されました。平成24年度のミニツアー実施日数 43 日、参加者は、564 名、アンケート結果からは、60 歳代主婦層の参加が多く、情報源としてはロコミ、広報東京都からとの分析が報告され、取材は、広報活動の成果からテレビ5件、雑誌3件、新聞、その他合わせて 10 件と報告がありました。

続いて、道路管理部の紅林構造専門課長からは、(2)土木学会で発見された勝関橋映画の放映と解説をしていただきました。映画に先立ち、全国の可動橋の説明、テレビ放映された映像の視聴後、作成中の映画の解説を解りやすく、丁寧に説明していただきました。

No.49(25—2)

今後のミニツアー案内に大変参考になった方が多くおられたと思います。とても有意義な研修会となりました。
一建班 藤野 文隆

平成25年度 施設見学会

本年度の施設見学会は、11 月 20 日(水)に白子川地下調節池・比丘尼橋下流調節池で第四建設事務所のご協力により実施いたしました。当日は他の行事と重複した会員もいて、参加者は 22 名でしたが、お天気にも恵まれ大変有意義な施設見学会となりました。

(詳細は見学会報告をご覧ください)

見学後、参加者全員で記念写真を撮り、概ね午後 4 時頃に見学会は終了しました。



事務所職員と参加会員

今回の施設見学会を実施するに当たって、ご説明、ご案内された四建の方々にはお世話になりました。

この場をお借りしまして御礼申し上げます。有難うございました。
担当理事 藤田進

施設見学会報告

第四建設事務所管内の「白子川地下調節池(トンネル型)」と「比丘尼橋下流調節池(ハコ型)」の見学会に参加しました。都では、現在、1 時間 50 ミリの降雨に対応できるよう、河川の整備を進めています。

しかし、近年、整備水準を大きく超えるような台

風や集中豪雨に伴う水害の増加等に鑑み、昨年 11 月、40 数年ぶりに、目標整備水準を引き上げる方針などを示しました。具体的には、降雨の特性を踏まえ、年超過確率がいずれも 1/20(現在 1/3~1/4)となる、区部で時間 75 ミリ、多摩部で 65 ミリとするものです。これまで河川事業に携わってきた人にとって、まさに“悲願達成”の心境です。

特に、白子川地下調節池は、22 年7月の石神井川(JR 王子駅下流)の溢水を踏まえ、白子川からの計画取水に加え、石神井川からの緊急取水も行い、流域を越えて相互に活用ができるよう工夫した都内最初の施設です。

今後は、75 ミリ計画に位置付け、既存の環七地下調節池間を結ぶ「石神井川地下調節池(仮称)」も併せ、「広域調節池」とすることで、神田川・石神井川・白子川 3 流域の飛躍的な安全性向上が期待でき、一刻も早い完成が待たれます。

見学は、雲一つない青空の下、13 時 30 分に比丘尼橋下流調節池管理棟に集合し、荒井四建所長の挨拶に続き、渡辺工事第二課長から管内及び調節池の概要説明後、山田設計係長、立澤工事係長を加え、二つの調節池の見学を行い 16 時頃に終了しました。

まず、比丘尼橋下流調節池(貯留量 21.2 万 m³、14 年度完成)では、水理実験を踏まえ取水口を「のこぎり」形状とし水理上有利な構造としたこと、調節池へのハト侵入対策を職員提案により行ったとの苦労話もありました。過去の貯留実績は年 2 回程度です。

次に、地下調節池発進立坑を約 40m 工事用 EV で下り、坑口から 100m ほど歩いてトンネル内を見学しました。泥水式シールド方式で、昨年 3 月に発進、本年 8 月に石神井川側の立坑に到達(約 17 ヶ月、最大日進 15m)、土砂搬出の制約(東日本大震災のため搬出先の変更と量の制限)があったとのことでした。

内径 10m、延長 3.2km、貯留量 21.2 万 m³の施設で、28 年度末の完成を目指します。また、到

達立坑では、周辺環境(近接住宅:最少離隔 2 m)等に配慮し、ニューマチックケーソンを採用、地下水侵入防止の圧気と掘削(遠隔操作による無人掘削も)・排土、シールドの水中到達など、様々な工夫により課題を克服したとのことでした。

日々の土木技術の進歩と市街地での工事の困難性を、改めて痛感させられました。

最後に、見学にあたって、お忙しいところ親切に対応してくださった、荒井所長はじめ事務所の方々に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

河川事業の益々のご発展と現役職員皆様のご健康、ご活躍を祈念いたしまして、報告とします。

北南建班 舩原 邦明

意見交換会・現場視察

南西建班の報告

11月1日(金)、南多摩西部建設事務所の現場視察及び意見交換会が開催されました。老沼リーダーをはじめ、林、伊藤、高橋、田中、堀内、矢野、吉田、井上のボランティア協会員9名が14時に事務所に集合、渡邊所長、伊佐副所長等、所幹部への挨拶もそこそこに、早速マイクロバスに乗り込み現場視察に向かいました。渡邊所長の車中第一声は、「昨年度は南西建の目玉事業である新滝山街道、谷地川整備事業を視察していただいたが、今回は地味な事業だが長年未解決な問題を抱えていた事業を、職員の様々な工夫で解決した現場を視察いただきます。」と自信に溢れていました。

最初の視察事業箇所は、主32号(秋川街道)で、当該箇所は八王子市施行の土地区画整理区域のため歩道拡幅のための用地確保がなかなか進まず、危険箇所であるにもかかわらず歩道設置が出来ない箇所でした。道路沿いにある水路敷(民有水路)を何とか利用できないかと、市と都で相談し地権者に折衝した結果、区画整理事業が完了するまでの間、市が無償借地することで協力が得

られたため、水路を一部暗渠化、栈橋形式で仮設歩道が整備できたものでした。また、同じ路線では、本当に長年の懸案であった神社とお墓の移転に見通しがたったとの説明に、現役の皆さんの工夫と努力に頭が下がりました。本当にご苦労さまでした。

さて、次は主46号(高尾街道)の浅川に架かる松枝橋の架替え事業現場でした。本橋を架け替えるに伴い、切り回しのための仮橋の架設工事を施工してきたが、右岸側取付道路にあたる地権者が、用地買収に応じないため、最後のワンスパンを残し工事を中止せざるを得なかった現場でした。用地課ではここで発想を転換、買収をあきらめ本橋が完成するまでの間、借地ができないか交渉を行ってきました。仮橋撤去時に返地との条件と工事完了までの代替え地の斡旋で交渉を重ねた結果、つい最近話がまとまり工事再開の見込みが付いたということでした。工夫しだいで困難な問題が解決するという好事例だと思います。新橋完成までまだまだ困難な問題に直面するでしょうが、現役の皆さんが、引き続き奮闘されることを祈って現場を後にしました。

最後に八王子西工区に立ち寄り、その足で浅川の不法工作地の解消や不法占用物件撤去ができたという現場を視察しました。当日はきれいになった管理用通路を住民の散歩道として開放すべく最後の仕上げ工事が行われておりました。

ここでも地元の協力を得るために粘り強く交渉を重ねた現役に皆さんの苦労が偲ばれました。

渡邊所長、各管理職の方々の熱心な説明に大幅に予定時間を超過。帰りの車中では、時間も押し迫っていたため、意見交換会の場とし、渡邊所長の名司会よろしく、各課長から主要事業説明を受けました。

事務所に到着後も直ちに意見交換会を再開、協会員からは現役時代の苦労話が出る一方、なお未解決な諸問題に対して、現役の皆さんが様々な工夫で解決していることに敬意を表するとともに、どのように対処すべきか白熱した意見交

換ができました。



意見交換会の様子

南西建の幹部、職員の方々に感謝の挨拶もそこそこに、協会員は久しぶりの議論に気分の高まりが収まらず、あたふたと次の反省会場に足を運んで、後輩の努力の姿に再度議論の輪が広がった。

南西建班 井上 幸夫

北北建班の報告

平成 25 年 11 月 7 日、北北建が事務所職員の能力向上と人材育成を図ることを目的として開催した所内研修「事例発表・意見交換会」に参加しました。

昨年に引き続き 2 回目の参加。協会からは山口顧問、北北建班の吉原、飯塚、林、野村、藤井会員の6名が参加しました。北北建は所長はじめ管理職、若手職員を中心に 32 名が参加しました。

最初に谷本所長から「日頃より参集訓練などにご協力いただきありがとうございます。少数精鋭で事業推進する中、東北や大島の被災地への応援が今後さらに増えることも予測されます。

ベテラン職員の大量退職後、大量に採用した新規職員をいかに即戦力として育成するかが大きな課題となっています。若手職員育成のためには、豊富な経験と知識を持たれている建設防災ボランティアの皆さんとの交流、情報交換は必要不可欠で大きな意義があると考えています。事務所事業に幅広くアドバイスをいただきたい。」とご挨拶

拶をいただきました。

協会からは藤井リーダーの挨拶、出席者の自己紹介の後、協会の活動報告を野村会員が行いました。

事例発表では、協会から①「道路整備事業におけるトラブル対応」(吉原会員)、②「心に残る「道路監語録」」(飯塚会員)のテーマで、それぞれ25分程度、発表と意見交換を行いました。

①では、道路工事現場を無断で重機、土砂搬入路に使ったヤクザの残土会社に対し、身の危険を感じつつも中止、退去させた工事課長時代の経験を紹介。こうしたトラブル発生時は、スピード感を持って迅速に対応すること、脅されてもぶれずに理論武装してあたること、周りの人に相談し組織として対応することが大切だと説明された。



事例発表の状況

②では、かつての上司だったⅠ道路監から指導を受けて今でも心に残る話の数々を「Ⅰ道路監語録」の中から紹介し、仕事を進めるポイントを説明。例えば「寄せ鍋理論」。

寄せ鍋は何から食材を入れるかが大事なように、仕事でも多くの課題のうち最初に解決すべきものは何かを定めて取り組むことが大事だと。「実際の寄せ鍋では何から先に入れますか」との問に、「それぞれの判断では」とか「そりゃ煮えにくいものから先では」との楽しいやりとりも。山口顧問からも「Ⅰ道路監からは分かりやすい例え話でどうすれば仕事が進むのか考えて行動しろと指導を受けた。」と

していくつかの語録を紹介された。

事例発表の最後に、北北建から今年度の技術業務体験発表会で行った「利用者の視点に立ったバスベイの形状の工夫」(工事第一課職員)の発表があった。工夫した形状を基準化したらどうかとの意見に対し、管内で今後、採用していく予定ですとのことでした。

北北建からは「過去の貴重な体験や教訓に触れることができた。仕事の進め方等に対する深い洞察力や示唆に溢れた言葉に出会い確かな収穫があった。」として今後も協会と連携していきたいとの言葉をいただきました。我々としては大変ありがたく励みになり、今後も、後輩の皆さんにお役に立てることがあれば積極的に取り組もうとの思いを強くしました。

なお今回も意見交換会の前に現在工事中の現場(黒目川黒目橋調節池と国分寺 3・2・8JR 中央線オーバーパス部)を案内していただきました。急ピッチで進む現場を見て大変心強く感じました。

最後に、今回の「事例発表・意見交換会」の開催と現場視察の機会を提供していただいた、谷本所長を始め北北建の管理職、関係職員の方々、そして参加された職員の皆様に感謝申し上げます。

北北建班 藤井 賢介

※協会からのお知らせ※

- 1.建設局幹部との懇談会のお知らせを同封します
- 2.東京都建設防災ボランティア協会のホームページアドレスは <http://tokyo-adv.info/> です。

発行人:杉浦 浩

発行:東京都建設防災ボランティア協会

所在地:新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

公益財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集:加藤 基雄、高橋 紀男

萩原 松博、丸岡 敏夫